

練馬区国民健康保険の保健事業に関する現況について

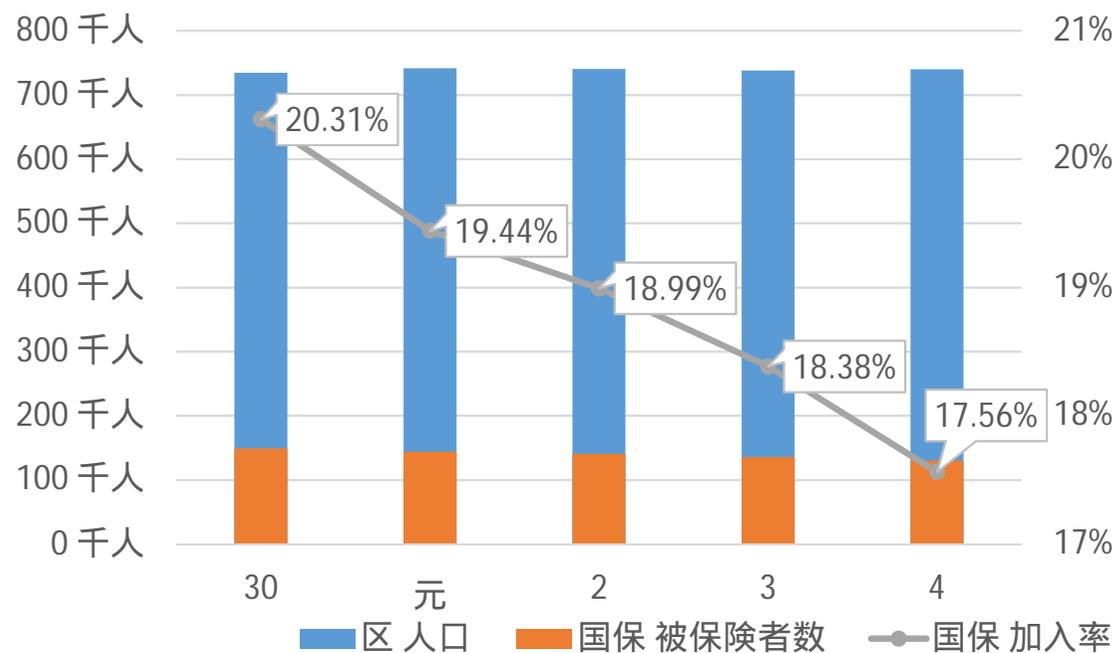
令和5年10月26日

練馬区国保年金課

1 被保険者の特性

被保険者数および加入率の推移

被保険者数の推移

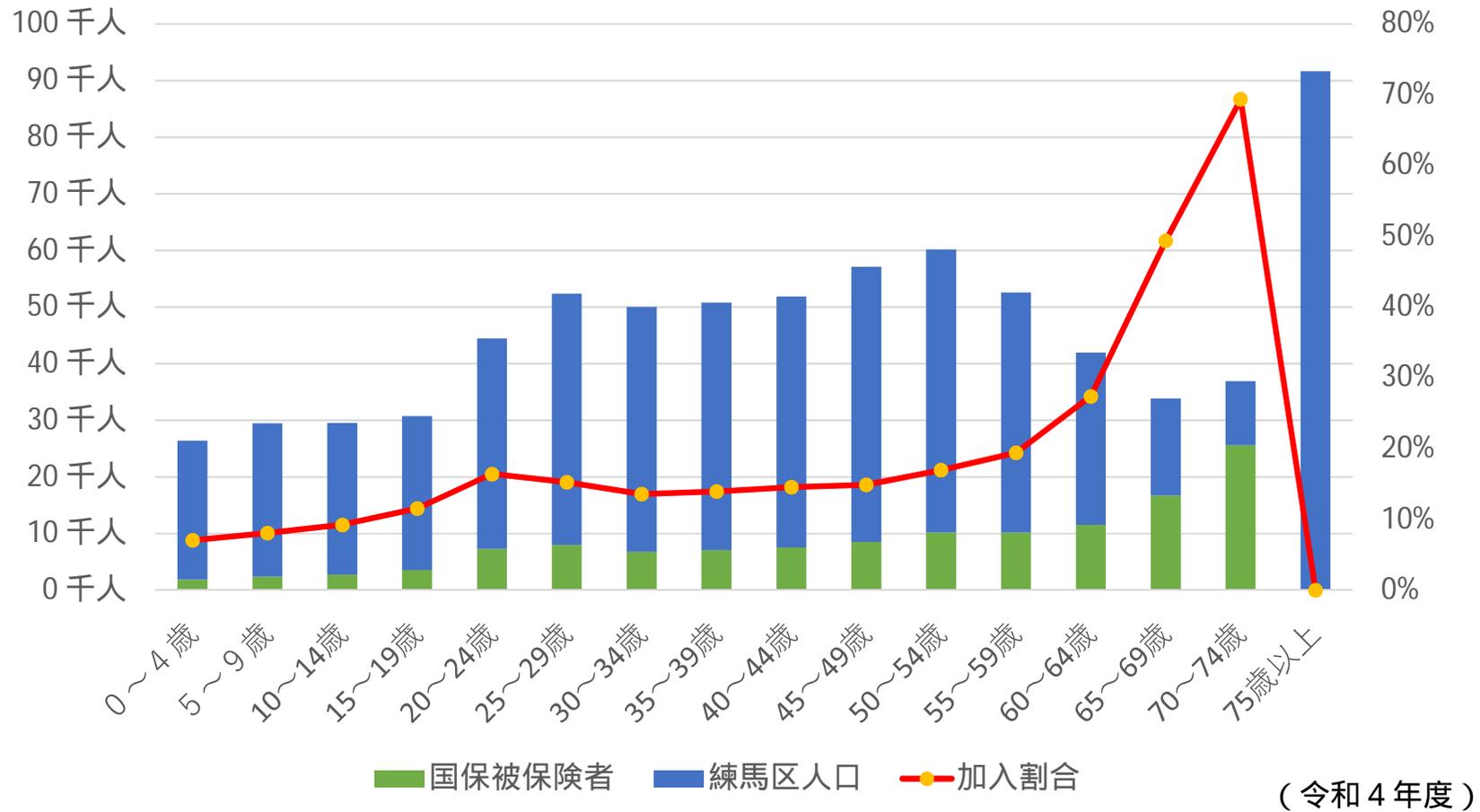


令和4年度末の国保加入者数は、129,912人である。
 そのうち、特定健診対象者（40～74歳）は90,265人。
 国保加入者数数は年々、減少の傾向にあり、令和4年度末の加入率は17.56%である。

加入率の推移

	国民健康保険		練馬区
	被保険者数	被保険者加入率	人口
30	149,212	20.31%	734,689
元	144,169	19.44%	741,588
2	140,627	18.99%	740,417
3	135,704	18.38%	738,181
4	129,912	17.56%	739,757

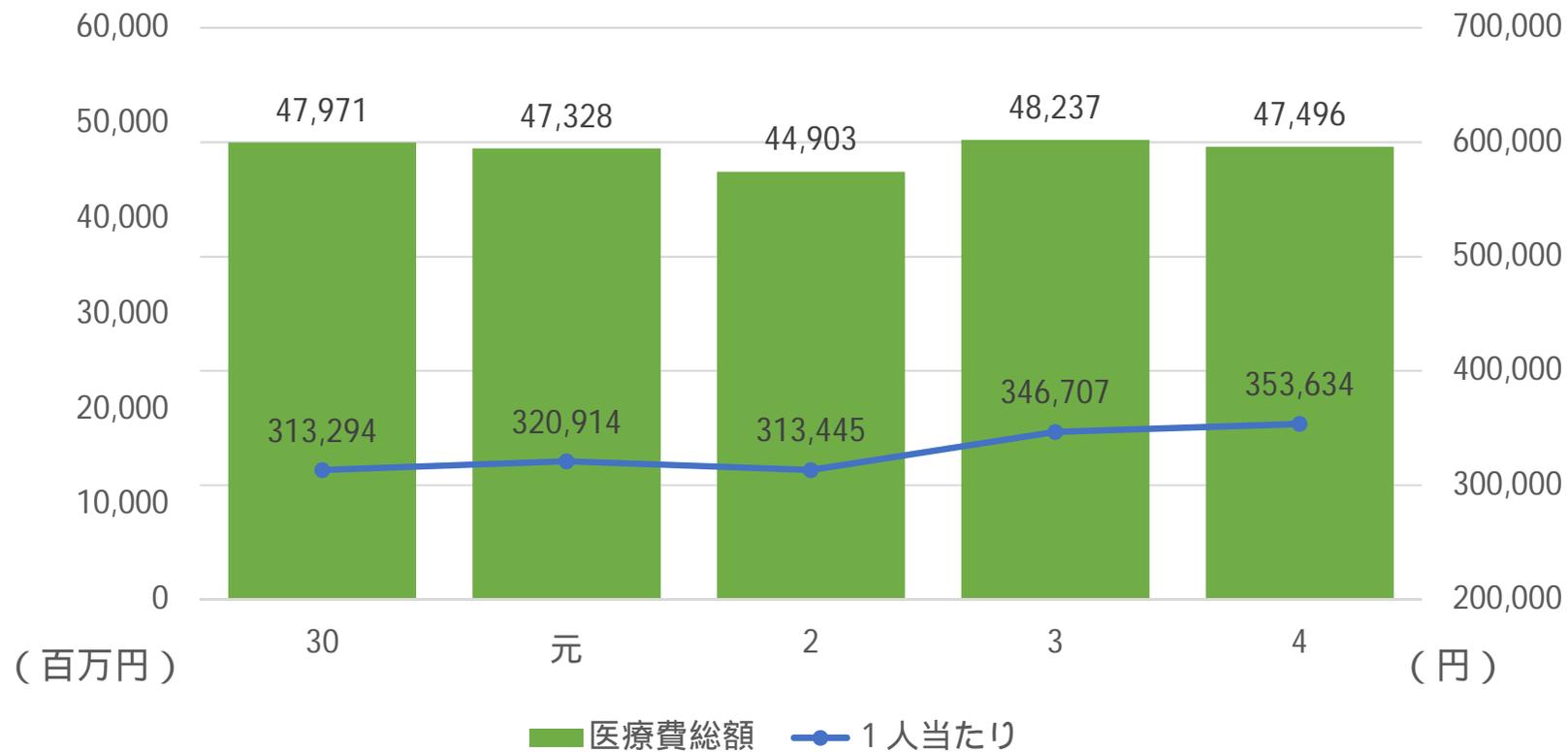
被保険者の年齢構成



被保険者の年齢別構成において、65歳を過ぎると加入割合が急激に上昇する。

2 医療費(全体・疾病別)の分析

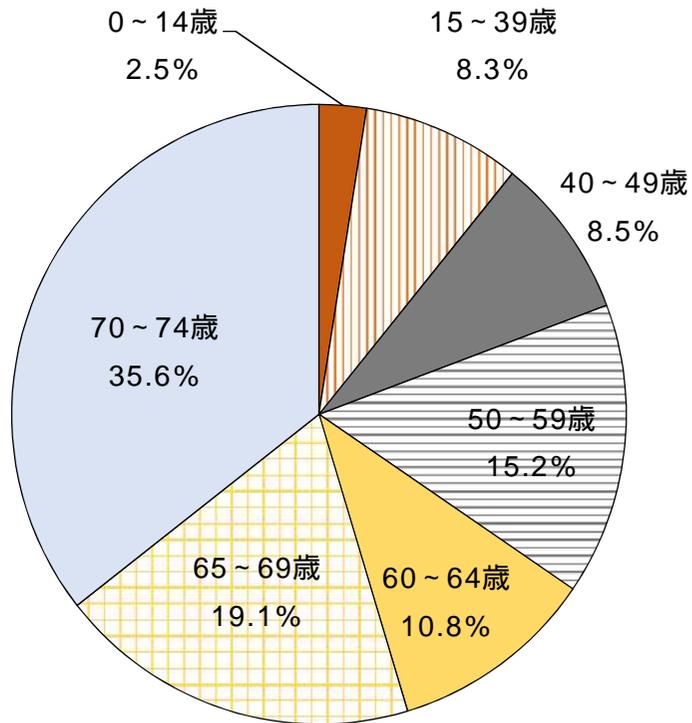
医療費総額と1人当たり医療費の推移



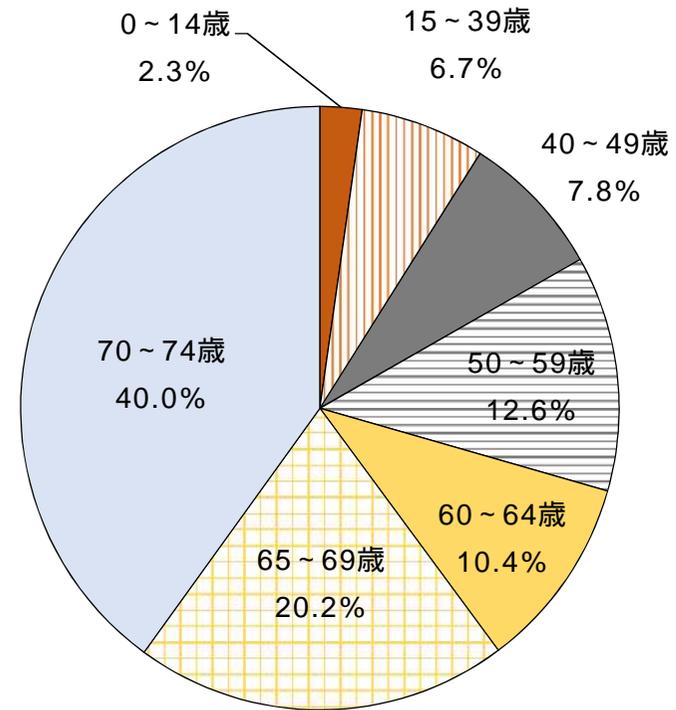
医療費総額は減少傾向であるが、1人当たりの医療費は増加している。
1人当たり医療費は、令和2年度にコロナ禍の受診控えもあり減少したが、令和3・4年度は増加している。

医療費総額の年齢階層別構成比

【練馬区】



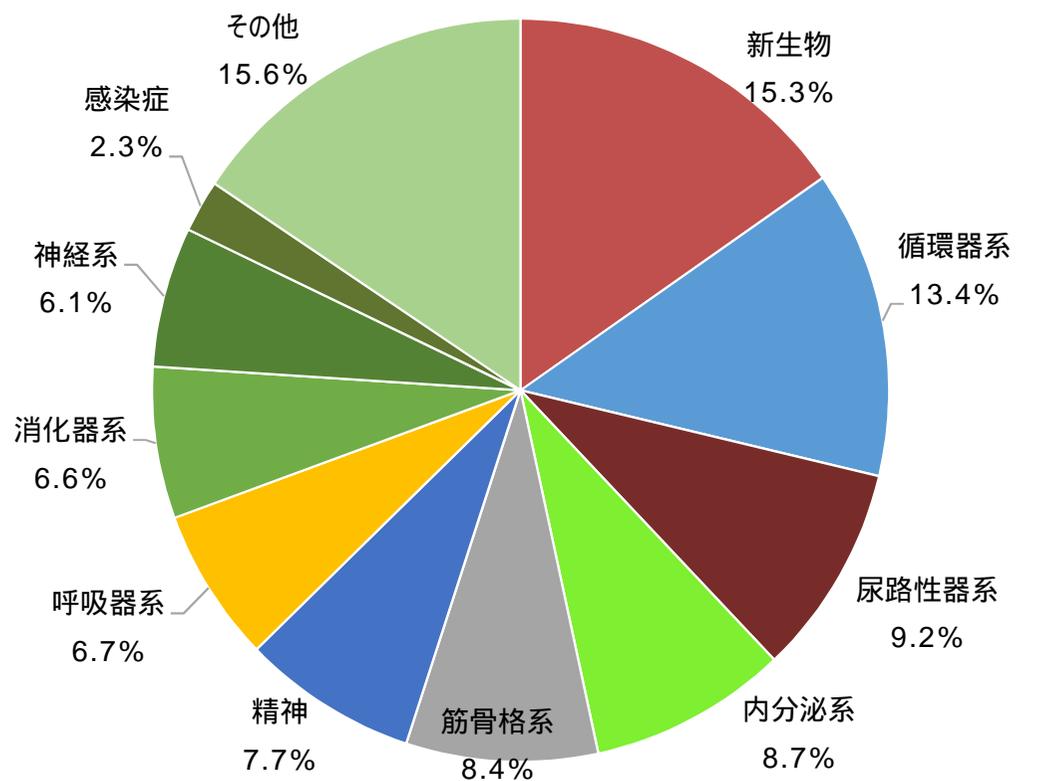
【同規模保険者】



(令和3年度)

区の65～74歳の医療費の割合は54.7%となっている。
同規模保険者では、練馬区に比べてさらに65～74歳の医療費の割合は高くなっており、60.2%となっている。

疾病別医療費の構成比



(令和3年度)

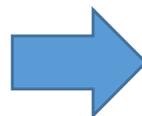
大分類	主な疾病の具体例
新生物	がん、良性の腫瘍 等
循環器系	高血圧症、脳梗塞、心筋梗塞 等
尿路性器系	腎不全（透析）、糖尿病性腎症 等
内分泌系	糖尿病、脂質異常症 等
筋骨格系	骨折、関節障害、リウマチ 等
精神	認知症、統合失調症、うつ病 等
呼吸器系	肺炎、鼻炎、扁桃炎、気管支炎 等
消化器系	胃潰瘍、腸炎、ヘルニア、歯周病 等
神経系	パーキンソン病、自律神経障害 等
感染症	インフルエンザ、ウイルス性肝炎、結核 等

上位3位が生活習慣病の関連する疾病（新生物も含む）となっており、合計すると医療費全体の4割近く（37.9%）を占める、

医療費(全体)に占める割合の高い疾病

平成29年度

1位	慢性腎不全（透析あり） 2型糖尿病による人工透析 患者数 262名	5.9%
2位	糖尿病	4.8%
3位	統合失調症	4.3%
4位	高血圧症	3.8%
5位	関節疾患	3.4%
6位	脂質異常症	3.0%
7位	うつ病	2.7%
8位	不整脈	2.3%
9位	肺がん	2.1%
10位	大腸がん	2.0%



令和3年度

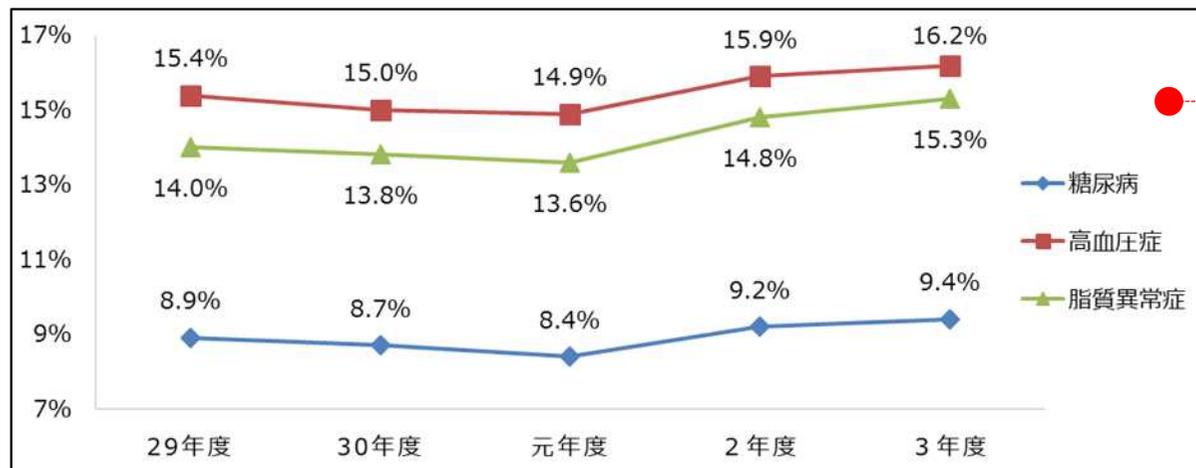
1位	慢性腎不全（透析あり） 2型糖尿病による人工透析 患者数 252名	5.7%
2位	糖尿病	4.5%
3位	関節疾患	3.4%
4位	統合失調症	3.4%
5位	高血圧症	2.9%
6位	不整脈	2.6%
7位	脂質異常症	2.5%
8位	うつ病	2.3%
9位	肺がん	2.3%
10位	乳がん	1.8%

29年度と比較すると、1位は「慢性腎不全(透析あり)」で変わらない。
「慢性腎不全（透析あり）」の医療費が、患者数は少ないが最も高い構成比を占めている。

3 生活習慣病関係医療費の分析

生活習慣病患者数および割合

被保険者に占める糖尿病・高血圧症・脂質異常症患者数の割合の推移



いずれの患者数の割合も元年度までは減少傾向にあったが、2年度以降は増加している。

患者千人当たり生活習慣病患者数の比較

(令和3年度)

	区	都	同規模	全国
糖尿病	203.5人	201.8人	225.6人	233.6人
高血圧症	355.2人	348.9人	403.7人	424.3人
脂質異常症	332.8人	326.7人	364.0人	376.5人

糖尿病、高血圧症、脂質異常症の患者数はいずれも同規模や全国平均と比べて少なく、東京都と比べると多い。

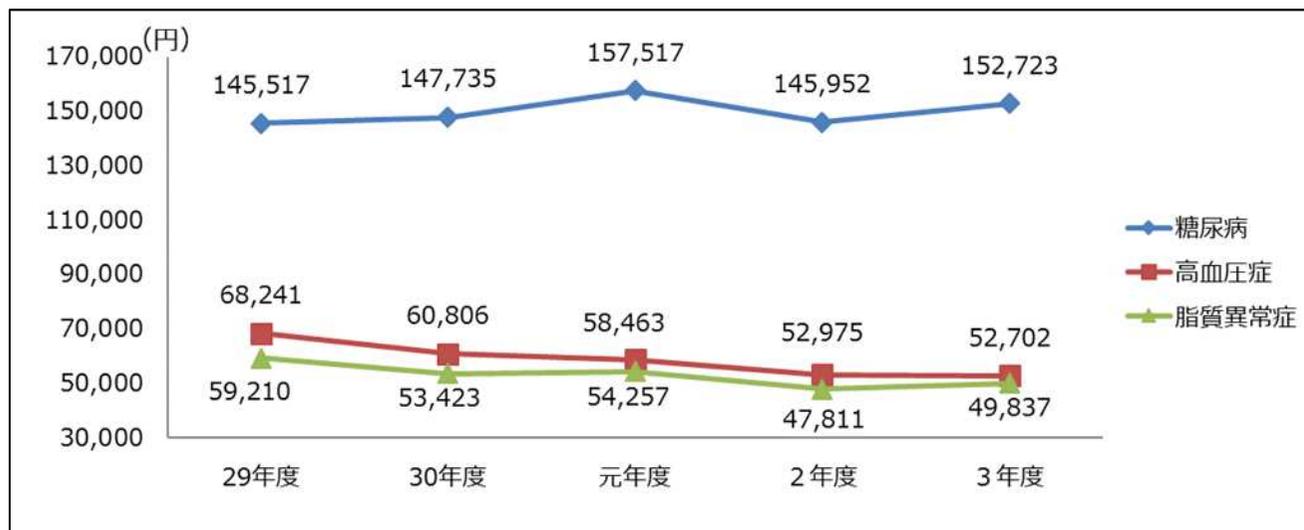
糖尿病患者のその他の生活習慣病併発割合

(令和3年度)

脂質異常症	高血圧症	高尿酸血症	虚血性心疾患	脳血管疾患
71.1%	69.2%	19.6%	17.9%	15.0%

糖尿病患者は、他の生活習慣病を併発している割合が高く、高血圧症と脂質異常症の併発割合は約7割となっている。

糖尿病・高血圧症・脂質異常症の一人当たり医療費の推移



糖尿病は、高血圧症、脂質異常症に比べ1人当たり医療費が高く、3倍近くとなっている。

糖尿病性腎症および人工透析患者数

患者千人当たり糖尿病性腎症患者数の比較 (令和3年度)

区	都	同規模	全国
25.6人	24.4人	22.8人	22.1人

患者千人当たり人工透析患者数の比較 (令和3年度)

区	都	同規模	全国
8.1人	7.8人	7.3人	7.0人

都・同規模・全国と比較し、糖尿病性腎症患者数・人工透析患者数ともに高い割合である。

糖尿病の合併症による人工透析の患者数・1人当たり医療費・医療費総額の推移

年度	患者数(人)	1人当たり医療費(円)	医療費総額(円)
29年度	262	6,886,393	1,804,235,030
30年度	264	6,613,044	1,745,843,540
元年度	260	6,430,542	1,671,941,040
2年度	268	6,151,792	1,648,680,380
3年度	252	6,486,078	1,634,491,760

糖尿病の合併症による人工透析の1人当たり医療費は減少傾向にあったが、3年度は増加している。

4 特定健診・特定保健指導に関する分析

特定健診 年齢層別・男女別の受診率内訳

(令和3年度)

年代 (歳)	計			男性			女性		
	対象者 (人)	実施者 (人)	実施率	対象者 (人)	実施者 (人)	実施率	対象者 (人)	実施者 (人)	実施率
40～44	6,760	1,783	26.4%	3,784	870	23.0%	2,976	913	30.7%
45～49	8,192	2,207	26.9%	4,495	1,090	24.2%	3,697	1,117	30.2%
50～54	9,478	2,984	31.5%	5,201	1,449	27.9%	4,277	1,535	35.9%
55～59	9,148	3,323	36.3%	4,799	1,536	32.0%	4,349	1,787	41.1%
60～64	10,340	4,348	42.1%	4,707	1,761	37.4%	5,633	2,587	45.9%
65～69	15,874	7,494	47.2%	7,068	3,001	42.5%	8,806	4,493	51.0%
70～74	26,664	14,306	53.7%	11,613	5,657	48.7%	15,051	8,649	57.5%
計	86,456	36,445	42.2%	41,667	15,364	36.9%	44,789	21,081	47.1%

受診率は、男女とも年代が上がるほど高くなる傾向があり、最も高いのは女性の70～74歳である（57.5%）。また、最も低いのは男性の40～44歳である（23.0%）すべての年代で、女性が男性の受診率を上回っている。

特定保健指導 年齢層別・男女別の受診率内訳

(令和3年度)

年代 (歳)	動機付け支援						積極的支援					
	男性			女性			男性			女性		
	対象者 (人)	実施者 (人)	実施率									
40～44	103	37	35.9%	57	25	43.9%	185	65	35.1%	26	10	38.5%
45～49	109	30	27.5%	79	18	22.8%	234	63	26.9%	42	7	16.7%
50～54	150	42	28.0%	118	38	32.2%	277	64	23.1%	66	19	28.8%
55～59	130	30	23.1%	92	26	28.3%	265	56	21.1%	73	15	20.5%
60～64	137	39	28.5%	103	27	26.2%	240	49	20.4%	92	12	13.0%
65～69	552	60	10.9%	323	49	15.2%						
70～74	835	53	6.3%	507	55	10.8%						
計	2,016	291	14.4%	1,279	238	18.6%	1,201	297	24.7%	299	63	21.1%

対象者数は、年齢が上がるほど多くなる傾向にあり、実施率は年齢が上がるほど減少する傾向にある。

最も実施率が高いのは、「40～44歳・女性・動機付け支援」(43.9%)である。また、最も低いのは、「70～74歳・男性・動機付け支援」(6.3%)である。